

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
<b>合計</b>	<b>100</b>

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム いくくしみの郷
(ユニット名)	1階
所在地 (県・市町名)	静岡県浜松市浜北区平口2406-1
記入者名 (管理者)	神谷南 (長尾直実)
記入日	平成 20 年 11 月 1 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	「気持ちの良い生活」を理念として掲げ、サービスを提供していく。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	毎月フロア毎にミーティングを行い、常に理念の確認をしていくようにする。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	玄関に理念を掲示し、訪問した方にも目にしてもらおうようにする。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	今後も挨拶をしていくようにしたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	利用者の状況を見ながら、積極的に参加したり、ホームに招いたりしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現時点では、取り組んでいない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価をすることにより、自分が提供しているケアの振り返りをし、外部評価を活かして改善に努めている。	○	ホームの質の向上のため、自己評価・外部評価を生かしていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて活動報告をし、その場での意見を参考にサービスの向上に努めている。	○	今後も継続していく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設全体で行う納涼祭にお誘いした。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	他のフローであるが成年後見制度を利用されている利用者があり今後そのような申し出があった場合にも、お引き受けしていく。	○	状況に応じて、情報が提供できるよう常に知識として深めておく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	『認知症グループホームの倫理綱領』を掲示し、常に確認するようにしている。又、認知症についての勉強会をホームで行うことにより、職員の知識を高め、虐待防止に努めている。	○	今後も認知症に関する知識を高め、虐待防止に努めていきたい。又、対応に困っていることがあったら、カンファレンス等で話し合い、職員が一人で悩まないようにしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には必ず見学及び面談を行い、退居の際も居室の継続を含めてご家族と話し合いを持ち決定していくようにしている。	○	利用者・ご家族ともに不安が少しでも軽くなるよう援助していきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市の派遣事業である介護相談員の受け入れを月に1回している。また、ご家族をはじめとする面会の制限はしていない。	○	今後も継続していく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が面会に来た際に、生活の様子をお伝えしている。毎月、おこずかいの出入金とおたより、緊急時以外の定期受診は受診記録表を郵送し、お知らせしている。職員の異動については、ここ1年異動がないが、異動がある場合は面会時などにお知らせしている。	○	毎月の報告は今後も継続していく。職員の異動があった場合は、混乱が生じないように配慮していく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付担当者及び苦情解決責任者として管理者を立て、第三者委員として浜北区の介護相談員に相談できるようにしている。	○	苦情受付担当者及び苦情解決責任者として管理者を立て、第三者委員として浜北区の介護相談員に相談できるようにしていく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入居の引き受けは、担当スタッフの意見をききながら受け入れしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	月に立てたイベントや計画時には、全員が参加できるように勤務表を組んでいる。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度の異動はない。基本的に利用者にとっての無い異動はしていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回、職員が交替で講師をし勉強会を施設内で行っている。また、施設外研修の情報があれば順番に勤務内において参加できる様配慮している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会主催の施設交流研修には希望者は全員勤務内で参加させた。いつくしみの郷との比較をすることで良い点は認め、改善点の気付きが出来るように皆で意見交換をしてもらった。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	常に声を掛けることを心がけている。また、休日はリフレッシュできるよう日数の確保を確実にし、希望休はほぼ通している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年始にその年の抱負をレポートにして提出してもらっている。職員個々の気持ちの方向性を確認し、アドバイスをするようにしている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	可能な場合は、入居前にホームを見学し雰囲気を感じていただくと同時に、話しをする機会を作っている。	○ 可能な場合は、入居前にホームを見学し雰囲気を感じていただくと同時に、話しをする機会を作っていく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前にご家族と話しをする面談の機会を設け、今までの暮らしぶり等の情報を聞くと共に、家族の要望を得るようにしている。	○ 入居前にご家族と話しをする面談の機会を設け、今までの暮らしぶり等の情報を聞くと共に、家族の要望を得るようにしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	協力病院の相談室やその他の介護事業所とも連携を図り、その人に必要な支援を導き出せるようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	可能な場合は、入居前にホームを見学し雰囲気を感じていただくと同時に、話しをする機会を作っている。	○	入居前の見学など、家族と相談しながら進めていきたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と家族が家族同然に過ごしている。できることは見守り、できそうになかったら、さりげなく援助している。	○	今後もお互いに支えあう関係作りを築いていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを面会時などに聞き、職員と家族が一体となって本人を支えるチームとなれるようにしている。	○	家族の思いを気軽に話せる関係を作っていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	今の関係だけに目を向けず、家族としての歴史を理解し、支援するようにしている。	○	職員の一方的な解釈をせず、家族としての歴史を理解できるようにしていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に本人にとってのなじみの場所や人を聞いている。友人なども訪問できるようにオープンにしている。	○	なじみの場所・人を大切に、関係を保てるように支援していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が黒子になり利用者同士が支えあえる関係が作れるように支援している。食事の場面で、気が合う利用者同士の席を近くにするなどの配慮をしている。	○	今後も利用者同士の菅家が良好でいられるように支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所したあとも、利用者がいる病院・施設などに面会に行っている。	○	退所後、利用者がいる病院・施設などへの面会は継続して行なっていきたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームでどう暮らしていきたいか普段の会話の中から探り、職員同士で話し合っている。又、意向が言える利用者には本人の思いを聞いている。	○	ホームでどう暮らしていきたいか普段の会話の中から探り、職員同士で話し合っていく。又、意向が言える利用者には本人の思いを聞いている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、センター方式を活用し、家族に生活歴を聞いている。又、本人からも会話の中から過去のことを聞いている。	○	入居前に、センター方式を活用し、家族に生活歴を聞いていく。又、本人からも会話の中から過去のことを聞いていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日課表を基にして一人一人に合わせたサービスを提供している。又、職員間でその日の状況を把握し、話し合いながら対応している。	○	日課表を基にして一人一人に合わせたサービスを提供していく。又、職員間でその日の状況を把握し、話し合いながら対応していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意向を取り入れながら、職員間で話し合い作成している。	○	本人、家族の意向を取り入れながら、職員間で話し合い作成していく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度評価し、プランを継続していくかを検討している。変化があった場合はその都度作成し直している。	○	3ヶ月に一度評価し、プランを継続していくかを検討していく。変化があった場合はその都度作成し直していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に記入し、勤務に入る前に読み職員全員が情報を共有できるようにしている。又、カンファレンスなどで日々の変化を話し合っている。	○	ケアプランが生かせるように、職員間で意識していきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の要望を聞き、可能な限り支援している。	○	本人・家族の要望を聞き、可能な限り支援していく。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	介護相談員に月に一度訪問をお願いしている。又、ボランティアの訪問も必要時をお願いしている。	○	介護相談員に月に一度訪問をお願いしていく。又、ボランティアの訪問も必要時をお願いしていく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホームにいての他の介護サービスを受けることはできないが、帰宅願望の強い利用者が何とか居宅に復帰できる手段はないか家族を含めて他のサービス事業者に問い合わせをしたことはある。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護事業を受けている利用者の受け入れはしているが、要支援の方の受け入れ実績が無くこちらから問い合わせる機会が殆ど無いが、包括からの空き状況の確認の電話には応じている。空室とのタイミングがあればお引き受けしていく。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医についての説明をし、納得した上で決定している。又、かかりつけ医とは常に連携をとっている。	○	入居時にかかりつけ医についての説明をし、納得した上で決定していく。又、今後もかかりつけ医とは常に連携をとっていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	施設で協力をして頂く医師がほぼ決まっており、必要に応じて相談しながら受診・治療を受けている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームに常勤の看護師が勤務しており、常に報告・相談しながら健康管理を行なっている。	○	今後も看護師と常に連携をとりながら健康管理をしていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力医療機関の相談室と連携を図り、受け入れ時期等早期に出来るようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ケアプランの説明を更新の度に行っており、その際、長期的な話までご家族と伴に検討するようにしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者の状態を看護師に常に報告し、かかりつけ医と相談しながら支援している。	○	利用者の状態を看護師に常に報告し、かかりつけ医と相談しながら支援していく。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	転居の際は今までの生活状況や注意点等分かるようにサマリーを書いて渡すようにしている。	○	今後も居住空間の変更に伴うダメージが少なくて済むようにサポートしていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報載っているカルテ・記録等は必要時以外は外部に持ち出さないようにしている。又、一人ひとりに合った言葉掛けを心掛けてはいるが、時々トイレ誘導時などに職員の声大きい時があり、気にされる利用者もいるので気をつけていきたい。	○ 一人一人の尊厳を守れるような声掛けや援助をしていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者主体ということを一番に考え、職員が手伝う前に本人が決めるのを待つようにしている。又、一度に多くのことを言わず、本人にわかるような言葉でゆっくりと説明するようにしている。	○ 利用者主体を第一に考え、本人の思いや希望に沿った支援に心掛けたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者中心として検討し、職員主体にならないように注意しているが、職員の都合や時間を気にして利用者のペースに合わせた過ごし方が出来ていない時がある。	○ 職員間でもっと話し合いをし、利用者のペースで過ごせるような段取りが出来るようにしていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	月に一度、近くの美容師に出張してもらっている。本人の希望の美容院がある場合はご家族に協力頂いている。又、その人が望むおしゃれを把握し、一緒に行なっている。	○ 月に一度、近くの美容師に出張してもらう。本人の希望の美容院がある場合はご家族に協力頂くようにする。又、その人が望むおしゃれを把握し、一緒に行なっていく。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が出来ることを把握し、一緒に出来るようにしている。食材と一緒に買いに行ったり、下準備をするなどしている。場面によっては、職員だけで作ってしまうことがある。	○ 利用者が参加できるメニューを考え、利用者と職員が一緒に出来る場を作っていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の嗜好を調べ、おやつや記念日などで食せるようにしている。又、昼食作りのメニューに取り入れるなどしている。	○ 利用者の嗜好を調べ、おやつや記念日などで食せるようにしていく。又、昼食作りのメニューに取り入れるなどしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	失禁がある利用者は、排泄記録表を利用し、トイレ誘導をしている。日中は布パンツで過ごせるように、援助している。	○	今後も気持ちよく過ごせるように援助していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望した場合は、なるべくすぐに入浴できるようにしている。職員からの声掛けをする場合は、本人の意思を尊重している。	○	一人一人が入浴を楽しめるように、ペースを考えていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	各々の身体状況や習慣に合わせて昼寝の時間を設けている。消灯時間は、各々眠くなったら寝るようにしている。	○	今後も安心して休息できるように支援していきたい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の好きなこと、役割を行なえる環境を作るようにしている。	○	一人一人が生きがいを持って生活できるように支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの利用者のお金は職員が管理している。「自分で持っていたい」という利用者は、家族と相談した上で持っている。	○	自分で管理できない利用者のお金は今後も職員が管理していく。「自分で持っていたい」という利用者は、家族と相談した上で所持して頂く。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	「外に出たい」「帰りたい」などの訴えがあったときは、外へ出るようにしている。その他、天気の良い日は散歩への声掛けをしている。	○	訴えがない利用者も散歩など外気浴を楽しめるように配慮して行きたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に一度近くのスーパーへ買い物と外食へ出掛けている。その他にも、公園へピクニックに行くなどしている。今年、苺狩りにチャレンジした。又、家族と外泊・外出をされている利用者もいる。	○	来年度より、家族も一緒に苺狩りへ行く企画を立てたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった場合は、ホームの電話を利用できるようにしている。	○	希望があった場合は、電話を利用できるように支援していく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	日中はいつでも訪問できるようにしている。その際、面会者名簿に記入して頂き、家人が確認できるようにしている。	○	日中はいつでも訪問できるようにしていく。その際、面会者名簿に記入して頂き、家人が確認できるようにする。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束0」を基本として、ホーム内では危険がない限り、自由に行動が出来るようにしている。	○	「身体拘束0」を基本として、ホーム内では危険がない限り、自由に行動が出来るようにしていく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの玄関前の道路の交通量が多いため危険性を考え、自動ドアをタッチ式にしている。	○	「閉じ込められてる」という思いにならないように、外へ行きたいときは職員と一緒に自由に出られるようにしていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に利用者の所在を確かめながら、安全に配慮している。	○	「見張られている。」という気持ちにさせないよう、さりげなく見守りをしていきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物は使用后すぐに片付けるようにしている。	○	危険な物は使用后すぐに片付けるようにしていく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急マニュアルをすぐに見ることが出来る位置に配置し、普段から目にするようにしている。個別に危険がある場合は、ケアプランに取り入れている。	○	緊急マニュアルをすぐに見ることが出来る位置に配置し、普段から目にするようにしていく。個別に危険がある場合は、ケアプランに取り入れていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生時は救急マニュアルに沿って実行している。又、看護師に連絡し、指示を得ている。	○	いろいろな場面を想定し、あわてず応急手当等が出来るように、カンファレンスなどでわからないことを話し合っていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に一度、防災訓練を行なっている。	○	地域の防災訓練にも参加していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面談をする場を作り、家族に説明した上で家族の要望を聞き、対応策を家族と職員とで話し合っている。	○	今後も家族と相談しながら、援助していく。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックをしている。変化があった場合は、看護師に報告し指示をあおっている。	○	今後も体調の変化に十分注意し、変化があった場合は看護師に報告、相談をしていく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋に目を通し、目的・副作用等を確認している。薬の内容や量などに変化があった場合は、身体の変化がないか注意している。	○	処方箋に目を通し、目的・副作用等を確認している。薬の内容や量などに変化があった場合は、身体の変化がないか注意していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日排便の確認をしている。朝にプルーンや牛乳を摂取し、なるべく薬を使用しないようにしている。	○	今後も毎日排便の確認をしていく。朝にプルーンや牛乳を提供し、なるべく薬を使用しないようにしていく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの声掛け、援助を行なっている。拒否される場合もあるので、その時は無理には行っていないが、就寝前は行なえるように援助している。	○	声掛けなどの工夫をし、毎食後口腔ケアが出来るように支援していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量を記録し、把握できるようにしている。水分は液体だけでなく、ゼリーやプリンなどでも摂取できるように工夫している。	○	水分不足にならないように、味のある飲み物などを提供するなど工夫していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対応マニュアルがあり、それに沿って実行している。	○	手洗い、うがいなど基本的なことを、今一度見直し実行していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、食器を消毒している。食べ物を直接触らないように、調理時には必ず手袋をはめている。	○	まな板や調理器具の消毒をしてはいるが、ランダムに行なっているため、使用した日は消毒するようにしていきたい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには季節の花を飾り、ホームの前を通る方にも楽しんでもらえるようにしている。	○	玄関周りに花を飾り、親しみやすい場にしていく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や玄関周りにソファを置き、リラックスできる空間を作っている。季節に合った花などを折り紙で作り、食堂の壁に貼っている。	○	今後も居心地の良い空間作りに努めたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中は食堂で過ごしている方が多い。食堂のソファが役立っている。又、玄関や廊下にもソファが用意しており、ここで一人で静かに過ごされる方もいる。	○	それぞれの居場所を確保できるような空間作りをしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物や家族の写真などを用意してもらっている。	○	入居後もなじみの物を用意してもらい、居心地の良い空間になるように支援していきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝、必ず窓を開け換気をしている。エアコンの設定はマメにチェックし、調節をしている。	○	今後も、朝は必ず窓を開け換気をし、エアコンの設定はマメにチェックし、調節をしていく。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーになっている。廊下やトイレ、風呂場に手すりがついている。居室には家人の了解を得て、クッション代わりにマットを敷いている。	○	本人のできる力を見極め、できるだけ自立した生活ができるように援助していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	簡単な言葉を選んだり、ゆっくり話すなどして利用者が理解できるようにしている。混乱を招くような状況や言葉を使わないように、職員間で情報を共有している。	○	わかる力を見極めて、混乱がないように援助していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭に洗濯物を干している。中庭や外周りに木や花を植え、鑑賞できるようにしている。草取りを行なうこともある。	○	今までは屋外で花植えを行っていたが、室内で皆が参加できるように工夫していきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

一人一人のペースを守り、日々気持ちよく過ごせるように援助している。買い物、外食、ピクニック等を企画し、楽しみを増やすことができるようにしている。協力病院と常に連携しており、緊急時でもすぐに受け入れが出来るようになっている。利用者と職員が家族という気持ちで日々過ごしている。外出先より帰って来た際に「あ～帰ってきたね。」と安心して過ごせる場として提供できる雰囲気作りに努めている。今まで紙パンツを使用していた方が、布パンツで過ごせるようになった方が数名いる。ホームで自由に動くことにより、車椅子から手すりを持ち歩行できるようになった方がいる。ホーム内では、制止することなく自由に歩いて頂いている。(徘徊される方も)